

令和 8 年度 糸魚川市総合防災訓練  
アンケート結果

## ■ 住民避難訓練

## 【避難訓練】

## (避難、避難所)

- ・ 避難するタイミングが理解できていない住民が多く、警戒レベル 3 の放送で避難する人が多かった。
- ・ 避難所（避難場所）へ行くことばかり考えていると、避難経路の危険箇所を見落としのまま避難を継続してしまうおそれがある。
- ・ 大雨による河川増水で指定避難所までの経路上にある橋を渡れない場合の検討が必要である。
- ・ 避難所と避難場所の違いが分かって良かった。
- ・ 大雨警報による土砂災害、浸水害の両方を満たす避難場所がない。
- ・ 一時避難場所が安全なのか不安である。
- ・ 地区の防災避難所がハザードマップの浸水想定区域内にある。
- ・ 適切な避難行動ができ、防災意識を高めることができた。
- ・ 在宅避難者への対応が課題である。

## (避難行動要支援者)

- ・ 避難行動要支援者への避難支援が課題である。
- ・ 高齢者も含めた車避難の検討が必要である。

## (情報収集、伝達)

- ・ 防災行政無線の放送内容が聞き取れなかった。
- ・ 避難放送終了後、地区無線装置で区民に避難場所等を放送したが、区民に聞こえていないようだった。
- ・ どこで何が起きているか、状況次第で対応が変わってくることから、正確な情報収集が重要である。

## (訓練参加者)

- ・ 足の悪い高齢者、多くの子どもの参加があった。
- ・ ヘルメット装着、非常用持出袋を持参した参加者が昨年より増加した。
- ・ 防災への意識が高まり参加者が増加した地区があった半面、高齢化等により減少した地区もあった。

## 【地区独自訓練】

- ・ 避難完了後、避難のタイミング、場所、方法について講話を行い好評だった。
- ・ 土砂災害危険箇所、避難経路の危険箇所の確認ができた。
- ・ ダンボールベッドなどの組立てを積極的にチャレンジされる方々もいた。
- ・ マンホールトイレ、簡易トイレ等を確認でき、防災意識の向上に役立った。
- ・ 今後は、炊き出しの訓練も実施してみようと思う。
- ・ アルファ米の試食は初めてで大変有効だった。
- ・ 40mmホースの取扱訓練を実施し非常に必要と感じた。
- ・ 応急手当訓練を行い大変良かった。
- ・ 備蓄品や非常持出袋などについて確認することができた。
- ・ 訓練実施後の検証ができた。

## ■職員訓練

### （職員参集）

- ・連絡及び報告は概ね円滑に実施でき、課内の連絡体制を再確認することができたが、実際の災害時（特に前ぶれの無い地震等）は同様の対応ができるか不安がある。
- ・通信障害時等、連絡が取れない場合の対応について、確認していく必要がある。
- ・職員参集基準で行動する必要がある、参集した職員で即行動ができることも含め各所属で事前にルールを構築する必要がある。
- ・出先機関の集約に時間を要する。
- ・会計年度任用職員の安否確認が難しい。

### （災害対応）

- ・職員が入れ替わっても災害対応できるようマニュアル化する。
- ・普段から課内で情報共有しながら、災害時に備えることが大事だと思う。
- ・全員が参集できない状況でも、対応を共有し実行できることが確認できた。
- ・用水組合との情報連絡訓練を実施しておく必要がある。
- ・大雨災害時、事前に避難所開設の準備ができることから、対策本部と市民班との間で避難所に関する情報伝達訓練等ができればよかった。
- ・避難所担当部署、職員の応援体制も含め協議をお願いしたい。
- ・所管施設が多く、一部が避難所になっており、施設の点検と避難所開設を同時に行うことは困難である。

### （災害対策本部）

- ・実災害時は、被害状況や避難情報の収集が追い付かなくなると感じた。
- ・電話設置後の導通確認をしていなかった。
- ・防災行政無線アンサーバックによる状況報告があったが、通信状態が良くなかった。
- ・本部設営は事前に行ったが、実際には少人数での設営も想定されるので、当日の設営訓練も実施する。

### （その他）

- ・平時から区長 LoGo チャットの使用が災害時での活用につながることから、インストール支援、運用マニュアルの作成、説明会開催など区長へのサポートをお願いしたい。
- ・訓練検証結果を受けマニュアルを修正する。
- ・実践的な訓練も計画し実施する。
- ・1階事務室の一部でドコモ回線が使用できないため、電波状況を改善できないか。